

強盗事件を想定 職員が対応訓練

大垣西濃信金支店

大垣市御殿町の大垣西濃信用金庫中央支店で、強盗を想定した防犯訓練が行われ、職員が非常時の対応を確認した。

年末に向けて職員の気持ちを引き締めようと、毎年、大垣署の協力で各支店持ち回りで開催。同支店の職員

強盗が人質をとり、現金を要求した想定で行った防犯訓練。大垣市御殿町、大垣西濃信用金庫中央支店



25人が参加した。

訓練は拳銃を持った2人組の強盗が客の1人を人質に取って、現金を要求したという想定で実施。行員らは非常ボタンを押したり、犯人の体型や服装を覚えたりしたほか、カラーボールを持って逃げる犯人を追うまでの対応を確認した。

その後、署が作成した犯人の特徴を記入する用紙でどこまで記憶できているか確かめた。

同署の亀山真弘生活安全課長は「強盗は県内で毎年1件ずつ起きている。明日はこの支店かもしれないと常に思い、コミュニケーションしてほしい」と呼び掛け、同金庫の柴田昌俊常務理事は「パトカーが来るまでしっかり時間稼ぎをしてほしい」と述べた。(鈴木隆宏)